



Food Allergy Is an Important Risk Factor  
for Childhood Asthma, Irrespective of  
Whether It Resolves

Evelien M. Vermeulen

J Allergy Clin Immunol Pract 2018;6:1336-41

食物アレルギーはそれが治癒するし  
ないに関わらず小児喘息の重要なリ  
スクファクターである。

## 背景

乳幼児の食物アレルギーのある児が喘息になるリスクは解っていない。特に乳幼児期の食物アレルギーが治癒した時の喘息のリスクが解明されていない。

## 目的

乳児期に負荷試験によって食物アレルギーを証明した児が4歳の時点で喘息リスクが増加するかを集団を基にしたコホートのデータを使用して調べた。

## 方法

5276 人の 12 ヶ月乳児が集団を基にし

た抽出枠を使用してリクルートされた。

参加した乳児はプリックテストを受け、陽性の患者は食物負荷試験を受けた。

4歳の時点で食物アレルギーが持続しているか治癒しているかを決定するために食物負荷試験を再度受けた。

食物アレルギーと医師の診断による喘息との関係は 2789 名の参加した児で 2 項回帰法により解析した。

## 結果

1 歳時に食物アレルギーがあった児は喘息発症リスクが増加した（食物アレルギーが 1 個の場合：相対リスク [RR], 1.69; 95% CI, 1.29-2.21;

食物アレルギーが 2 個以上の場合： RR, 2.76; 95% CI, 1.94-3.92)。

喘息のリスクは乳児期に食物アレルギーと湿疹が共存している児が最も高かった。

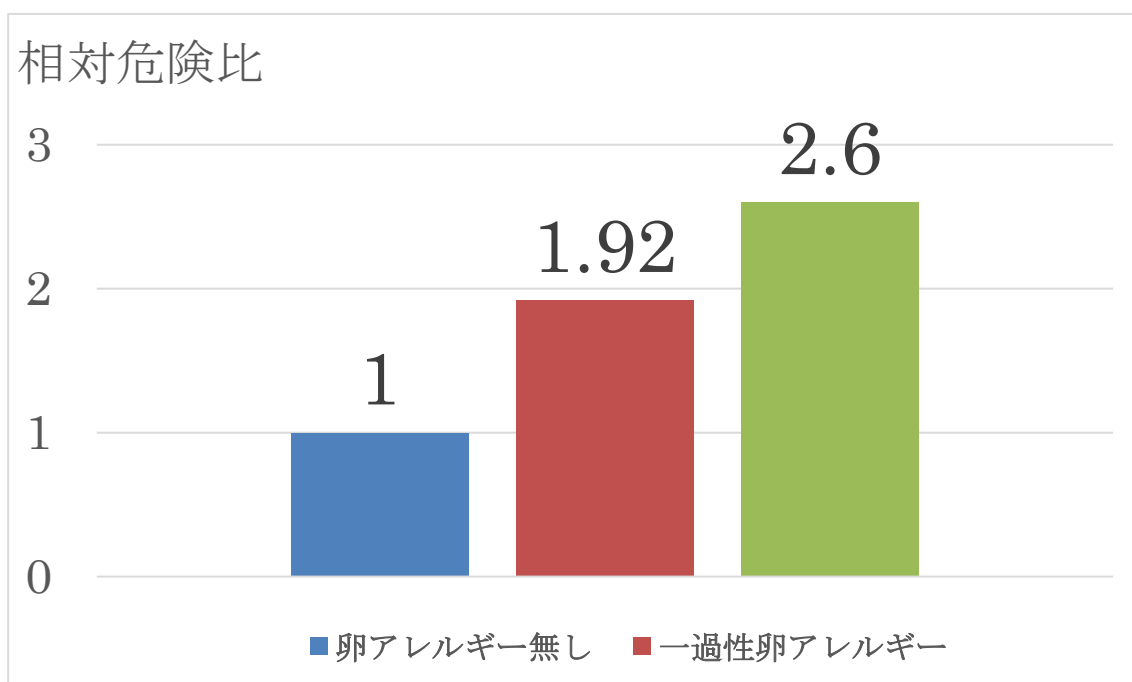
一過性の食物アレルギーおよび持続性食物アレルギーいずれも喘息のリスクが高かった（一過性卵アレルギー： RR, 1.92; 95% CI, 1.46-2.51; 持続性卵アレルギー： RR, 2.60; 95% CI, 1.76-3.85)。

## 結論

**4歳時の喘息リスクは1歳時に負荷試験にて食物アレルギーがあることを確認した児の場合、その食物アレルギーが**

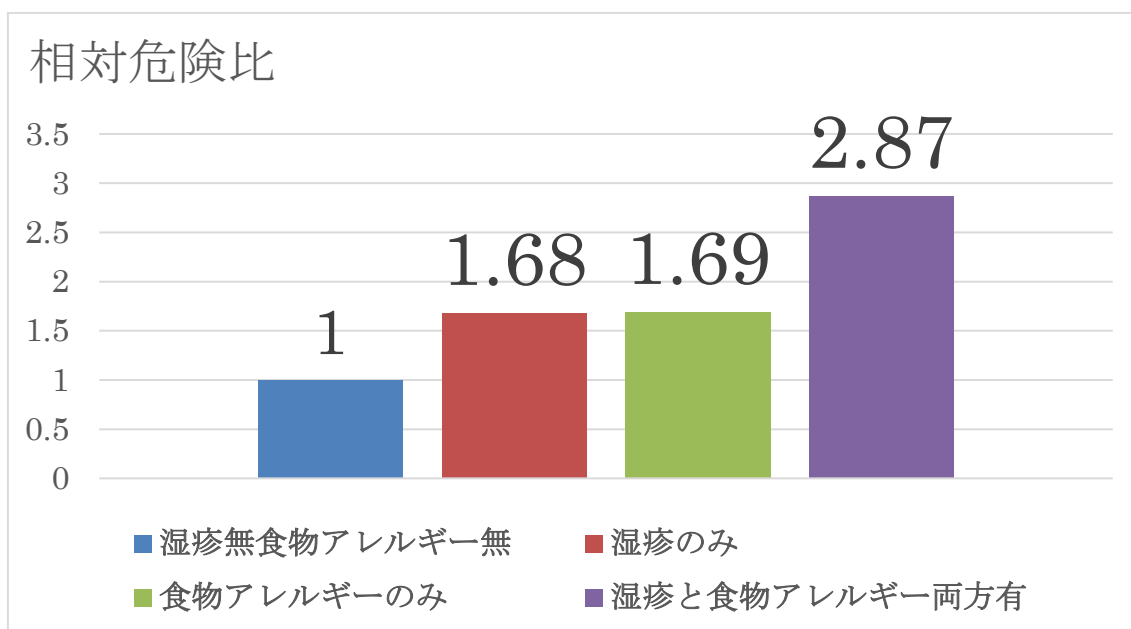
治癒する・しないに関わらず食物アレルギーがない児の約2倍であった。

#### 4歳時喘息と持続性卵アレルギー・一過性卵アレルギーとの関係



食物アレルギーが2個以上あり、湿疹を合併している児は食物アレルギーのない児と比べて約3倍喘息になるリスクが高かった。

#### 4 歳時の喘息と 1 歳時の湿疹・食物アレルギーとの関係



#### 4 歳時の喘息と 1 歳時の湿疹・食物アレルギーとの関係

(1 歳時の喘鳴・喘息児を除外した場合)

